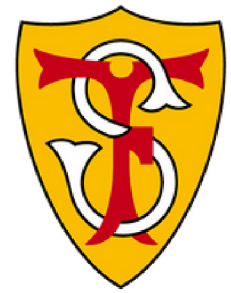


CENTER FOR GENDER STUDIES

NEWSLETTER VOL.1



FERRIS
UNIVERSITY



「私たちが考える女子大の役割」 公開プレゼンテーションを共催（7月21日開催）

関口洋平助教が担当された「プロジェクト演習」の学生による発表をジェンダースタディーズセンターとの共催で行いました。授業では、女子大学の人気低迷という問題を端緒に、フェリス・津田塾大学の学長へのインタビューと首都圏の女子大学学生へのアンケートを行い、「女子大学の意義」を学生の視点から見出すことを試みました。発表では、女子大学へのイメージと実態との差異、トランスジェンダー学生の受け入れ、女子大学のキャリア教育という議題を提示し、現代における「女子大の意義」を提言しました。当日は対面・オンラインをあわせて100名近くの方に参加いただき、7月24日朝刊の朝日新聞の一面に取り上げられるなど、メディアからも大きな注目を集めました。

女子大学のイメージに関しては、女子大学に対する偏見を取り上げ、多くの女子大学では、「お嬢様大学」というレッテルに反し、女性の自立を目標に掲げたキャリア教育に力を入れていることを議論しました。

トランスジェンダー学生の受け入れに関しても、アンケートの結果、約4分の3の学生がトランスジェンダー学生の受け入れに賛成であることを示しました。

キャリア教育の面では、女子大学に求められるリーダーシップ教育のあり方について考えました。リーダーという言葉は、上に立つ人間という意味ではなく、自分自身をリードできる者のことを指すという前提を確認したうえで、このようなリーダーを育成することが女子大学の役割であると議論しました。また、女子大学では女性が多く、社会における男性優位性の影響を受けづらい環境だからこそ、女性教職員が女子学生のロールモデルとなり、将来の可能性を具体的に広げていくことが必要なのではないかと提言しました。



センター長よりご挨拶



今年4月、「新しい時代を切り拓く女性」を育成するために「ジェンダースタディーズセンター」を開設しました。ところで、本学が日本で最も古い歴史を持つ近代的女子教育機関であることをご存じでしょうか？「歴史」「伝統」と「新しい時代」、一見矛盾しているように思えますが、そこにこそ本学の強みはあります。「新しい時代を切り拓く」というのは、“時代に流される”ということではありません。それは、現代社会において求められている能力を、自分たちの得意分野の中で磨き、デザインして社会に発信することです。そのためには、よき伝統の中で培われてきた教養と学びの場は欠かせません。本学の女子教育の成果をセンターから社会に発信してまいります。どうぞご期待ください！

キムヒョナム
（金香男 国際交流学部教授・ジェンダースタディーズセンター長）

ジェンダースタディーズセンター開設記念 「ジェンダーでクラシック音楽を考える」 （6月21日開催）



2023年4月に設置されたジェンダースタディーズセンターの立ち上げイベントが、フェリスホールにて行われました。本イベントは二部構成で行われ、第一部では、ハワイ大学マノア校アメリカ研究科の吉原真里教授とお茶の水女子大学人文科学系基幹研究員の井上登喜子准教授をお招きして「音楽家にとってのジェンダー、音楽教育のジェンダー化とは？」というテーマで対談を行いました。第二部では、本学音楽学部の土屋広次郎教授と音楽学部の学生中心に、男性作曲家の影となった女性作曲家やセクシュアリティをテーマとした作品で構成された演奏が披露されました。当日は対面のみ形式でしたが、100名近くの方に参加いただき、熱気のコもったイベントとなりました。

第一部では、吉原教授の著書である『「アジア人」はいかにしてクラシック音楽家になったのか？—人種・ジェンダー・文化資本』を中心に、クラシック音楽業界におけるジェンダー問題を議論しました。クラシック音楽業界において女性が感じる障壁や偏見をジェンダーという枠組みで捉える試みが少なかった20年前の状況は改善しつつある一方で、現在でもなお音楽業界で女性がキャリアを積むことの厳しさは残っているとのこと。クラシック音楽業界における女性の位置づけがどのようにジェンダー化されてきたのかを、嗜みとしての音楽やピアノ作品、女性作曲家等を事例に説明して下さいました。とても身近な場所にジェンダーの問題は存在していることが分かるお話でした。第二部では、第一部の内容と関連させながら演奏が行われました。作曲家の背景をジェンダーの側面から説明していただいたうえで、対談のなかで取り上げられた曲などを含め、素晴らしい演奏を披露していただきました。

キャリア支援ワークショップ「ジェンダーとキャリア」 (10月20日開催)

フェリスOGを招いて、キャリア支援ワークショップを開催しました。学生向けキャリア支援事業を展開するスリール株式会社勤務の浜田歩さん（本学文学部卒）と田嶋美由紀さんにいらして頂き、「結婚、出産、子育てとキャリアデザインについて」「子どもを持たない選択とキャリアデザインについて」という2つのテーマのお話を伺いました。20数名の学生が参加し、フェリス女学院大学で学んだことを、将来どのように生かしていくのかということを考える場となりました。



学生スタッフの活動

Gem（センター愛称）は、第一に学生たちのセンターなので、学生スタッフがイベントの企画・運営に積極的に関わっています。イベントの他にも、「センターにこんなDVDや図書を配架してはどうか」「センターに生理用品や避妊具を設置したらどうか」など様々な提案をして、キャンパス内のジェンダー平等を推進するリーダーの役割を担ってくれています。

◇大学祭での活動



2023年度の大学祭では、学内パトロールとセンターの愛称投票を行いました。学内パトロールでは、大学祭実行委員と連携し、事前に大学祭における迷惑行為や不審者に関するアンケート調査を行い、大学祭における不審者問題への対策を考えました。そして、当日は「迷惑行為禁止」「撮影禁止」など書かれたパネルを掲げて、教職員とともにパトロールを行いました。また、こちらの写真で着用しているブルゾンも学生スタッフが作成してくれたもので、Gemのロゴがデザインされています。

センターの愛称投票では、140件を超える候補から3つに絞り、大学祭で最後の1つに決める投票が行われました。93票を勝ち取った陳麗娟さん（チンレンケン）考案の「Gem（ジェム）」が愛称となりました。「Gem」に込められた思いは次の通りです。「ジェンダースタディーズセンターの頭文字である「ジ」を取り上げ、宝石と本当にいい人という意味があります。本当にいい人たちが活躍する、フェリス女学院大学の宝石みたいなセンターという意味を込めました。また、社会で活躍できるようなリーダーシップをもつ女性の人材育成という夢の実現という意味も込めています。」



◇ジェンダーカフェ



2023 Oct. Gender Cafe

性と生殖に関心のある健康

リプロダクティブ・ヘルスを考える

ジェンダースタディーズセンター
Halo-Halo Club 共催

◆リプロダクティブヘルスとは？
「性行為、子どもを産むことに関わる全てにおいて、身体的・精神的・社会的に本人の意思が尊重され、自分らしく生きられること」

開催日時：2023年10月17日（火） 12:20-13:00
場所：ジェンダースタディーズセンター（CLA棟2階）
お問い合わせ：halohaloclub.ferris@gmail.com

12月ジェンダーカフェ

schedule
12月8日(金)「生理って結局なんだろう？」
12月15日(金)「トイレ問題について話そう」
12月19日(火)「デリケートゾーンのケアについて学ぼう」
TIME: 12:20~13:00

ジェンダースタディーズセンターにて開催
(CLA棟2階2203)

他の人の話を聞くだけでも大歓迎です。どなたでも参加ください。

Halo-Halo Clubは、ジェンダーに関する活動について考える学生団体です。

学生スタッフ制作ポスター

ジェンダーカフェは、毎月1回センターで行われジェンダーに関するモヤモヤを共有したり意見交換をしたりしています。テーマを学生が選び、その議題について調べ話し合ったり、時にはゲストの方を招いて対談したりしています。だれでも参加できるアットホームな空間になっています。

◇国際女性デー関連イベント



Gemの学生スタッフ4名が登壇しました。本イベントは、二部構成で行われ、一部では藤井サチさんと長田杏奈さんとの対談、二部ではGemの活動報告と婦人科医の小野寺先生に学生の質問に答えて頂きました。一部では、今の若者が抱える身体のコンプレックスやルッキズムを取り上げ、ありのままの自分を受け入れることの大切さと難しさを確認しました。二部では、大学においてジェ

～過去のテーマ～

- 第1回（6月9日）
「あなたのジェンダーライフヒストリー」
 - 第2回（7月14日）
「保健室の先生にきてみよう！
カラダのこと、婦人科のこと」
 - 第3回（10月17日）
「リプロダクティブ・ヘルスについて考える」
- ※学生団体Halo-Halo Clubと共催

- 第4回（11月17日）
「トランスジェンダー当事者の方と話してみよう」
 - 第5回（12月8日、15日、19日）
「With 生理」
「生理って結局なんだろう」
「トイレ問題について話そう」
「フェムケアについて学ぼう」
- ※学生団体Halo-Halo Clubと共催

2024年国際女性デー関連イベント

～自分軸で考えよう～
Z世代・ジェンダーとからだの話

入場無料 要予約

2024年 2.18 日
13:30～15:00 (開場 13:00)

会場 フォーラム (男女共同参画センター横浜) 1階ホール

定員 200人(全席自由)

スケジュール 13:30▶▶15:00

第1部 藤井サチさんトーク (聞き手: 長田杏奈さん)

第2部 小野寺先生ミニレクチャー (フェリス学院大学学生トーク)

登録者プロフィール

藤井サチ (モデル・タレント) 長田杏奈 (ライター) 小野寺真奈美 (医師)

1997年生まれ。原宿出身。上智大学経済学部1年(19歳)卒業。2022年からは雑誌WVの専属モデルとして活躍中。最新ファッションショーにも出演。SNSで美容・ファッションに関する発信も行う。2023年12月、雑誌「ELLE」(P.102)に、高橋麻里子と対談。雑誌ではファッション雑誌「ELLE」(P.102)に、高橋麻里子と対談。雑誌ではファッション雑誌「ELLE」(P.102)に、高橋麻里子と対談。

1977年生まれ。2004年、フェリス学院大学医学部を卒業。2012年より女性医療クリニックLUNAで婦人科医を勤める。最近ではフェムテック検定12級試験、性教育推進員といたる活動から、LUNAが分野の普及と発信を行っている。

2014年、久慈医科大学医学部を卒業。2012年より女性医療クリニックLUNAで婦人科医を勤める。最近ではフェムテック検定12級試験、性教育推進員といたる活動から、LUNAが分野の普及と発信を行っている。

2024.1

お問い合わせ
〒245-8650
神奈川県横浜市泉区緑園4丁目5-3 CLA棟2階2203号室
gender@ferris.ac.jp

ンダーに関する活動の必要性をGemの活動で提示し、後半にGemの活動の中で生まれた疑問を小野寺先生に答えて頂きました。婦人科を受診することのハードル、SNSにある情報の信憑性、主に女性身体に起こる問題をどのようにして男性と一緒に考えるかという質問に婦人科医の視点から有益な回答を得られました。

Gem 公式HP

Gem 大学HP

FERRIS_GENDER_STUDIES